

内部被曝の要因は、食品の検査、規制が徹底していなかった可能性があり、報告者の研究によると、周辺の子供を試験的に 3 ヶ月間、汚染されていない地域に住ませ、提供する食料は徹底的に検査したから与えたところ、体内のセシウムの量はかなり減った。と報告しております。

また、事故 3 年後の 1989 年からの約 10 年間、事故の影響を受けたロシアのブリヤンスク州の子供の血液細胞を調べると、過剰に発生すると、癌や心臓疾患の一因で、細胞を傷つける活性酸素などのフリーラジカルが通常の約 2 倍多かったという。病原体を攻撃する抗体を作る免疫細胞は、通常より 1 割以上減っているという。

「内部被曝により細胞レベルで様々な影響が出ていると考えられる。因果関係の調査・追求が必要だ」報告は結んでいる。(新聞報道を要約した)

Q：避難区域でも除染作業が開始されたと聞きましたが？

A：放射性物質汚染対処特別措置法に基づき防衛大臣は陸自化学防護隊約 300 名の派遣を決め、富岡、浪江、楢葉 3 町の庁舎の除染作業を行うことを決めた。

それとは別に除染モデル事業の初めての除染現地作業が、5km 圏内である大熊町で試験的に 11 月 18 日行われた。国は警戒区域や計画避難地域等がある 12 市町村で除染モデル事業を行い、来年 1 月以降、本格的な除染事業を進める計画を発表した。

現在大熊町で行っているのは大熊町役場周辺、夫沢地区、民家 30 軒で、サーベイメーターを使つての空間の放射線量を計測しているが、地表、地表 1cm、空間地上 1m の各点を計測する、空間 1 m では毎時約 10 ~ 17  $\mu$  Sv だが、木の根元や落ち葉の吹き溜まりでは最高 43.4  $\mu$  Sv を計測している。



(大熊町各地区)

ホットスポットが各地に散在していると思われる。 土壤測定結果

これから役場周辺や田畑などの地域のそれぞれ約 5 ヘクタールが対象。10 m 間隔で各 400 地点の線量を計測する。そのデータを基に除染計画を立てる.とじています。

但し本格的な除染作業が開始されても、汚染土の仮置き場、処理場は決まっていない。

地点名	空間線量 ( $\mu$ Sv)		土壌中の放射性核種 (kBq/m <sup>3</sup> )				プルトニウム 239・240(Bq/m <sup>3</sup> )
	地表面	地上 1m	コウ素 131	セシウム 134	セシウム 137	セシウム $\Delta$ 136	
(1) 諏訪	22.0	16.8	43	1600	1803	7	未検査
(2) 西平	12.6	9.0	32	623	711	3	未検査
(3) 清水	38.0	22.0	70	2105	2520	11	0.19
(4) 大野	60.0	42.0	100	4463	4607	24	0.26
(5) 中央台	90.0	70.0	139	5494	5945	29	1.24
(6) 長者原	19.0	14.0	100	2092	2389	9	5.91
(7) 北台	140.0	100.0	197	4590	4940	22	11.10
(8) 東台	130.0	100.0	124	2906	3268	13	2.77
(9) 東平	180.0	140.0	653	27772	30014	151	5.02
(10) 緑ヶ丘	100.0	80.0	171	5101	5742	24	11.00
(11) 高平	40.0	30.0	31	915	1051	4	7.98